

## 当事者意識をもって客観的に生活課題をとらえるために

家政教育・藤田昌子

### 1. 授業の概要

#### (1) 目的

本授業は、生活者として当事者意識をもって多面的な視座から生活の実態を把握し、個人の生活と社会とのかかわりについて考えることを通じて、私たちの生活の背景にある現代社会の諸課題を客観的にとらえ、問題解決に取り組む態度を養うことを目的としている。対象は、2回生で、中学校家庭科および高等学校家庭科の教員免許の取得をめざす学校教育教員養成課程・生活環境コースの学生、保育士養成コースの学生、コース選択科目として生活環境コースの学生などが履修している。

#### (2) 授業スケジュール

- 第1回 生活(家庭)経営学基礎論(1)  
家政学とは、生活経営学とは
- 第2回 生活経営学基礎論(2)  
現代の生活における諸課題
- 第3～4回 男女共同参画時代の生活経営(1)～(2)  
ジェンダーとは、学校におけるジェンダー
- 第5～7回 男女共同参画時代の生活経営(3)～(5)  
ワーク・ライフ・バランス①～③
- 第8～10回 少子高齢社会と生活経営(1)～(3)  
子ども・高齢者の自立と生活経営
- 第11～12回 現代の生活課題と生活経営(1)～(2)  
子どもの貧困①～②
- 第13回 現代の生活課題と生活経営(3)  
住まいと貧困
- 第14回 現代の生活課題と生活経営(4)  
地域の生活と居住権
- 第15回 期末試験・総括・評価

#### (3) 授業を行う上での工夫

家庭生活や現代社会における諸課題について常に関心をもち、当事者意識をもつために、また、個人の生活の背景にある現代社会の諸課題を客観的に把握するための工夫は、以下の通りである。

- ・関連する新聞記事の収集→課題として提出
- ・具体的データの提示
- ・VTRの活用
- ・ロールプレイング、グループワークの活用
- ・アクセシビリティの検証 など

### 2. 授業の達成度

#### (1) 学部DPとの対応

下記のような結果となり、いずれの課程でも概ね達成できたと考えられる。

#### 【学校教育教員養成課程（回答者17名）】

DP1. 教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。(知識・理解)

どちらかと言えば向上していない	5.9%
どちらかと言えば向上した	35.3%
向上した	58.8%

DP2. 学校現場で生じている教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

どちらかと言えば向上した	58.8%
向上した	41.2%

#### 【総合人間形成課程（回答者12名）】

DP1. 充実した生涯学習社会を築くため、生涯学習に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を習得している。(知識・理解)

どちらかと言えば向上した	41.7%
向上した	58.3%

DP2. 現代社会で生じているさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

どちらかと言えば向上した	41.7%
向上した	58.3%

#### (2) 授業振り返りシートの学生の学びより

達成できたと考えられる項目と関連する学生の記述をいくつかあげる。

①家庭生活や現代社会における諸課題について常に関心をもつようになっている。

・今までよりもニュースや新聞記事に目を向けるようになった。社会で起こっている様々な問題(特に家庭生活に関するもの)に関心が高まり、意識的に見ようとしている。

・授業内で扱った問題などに関連することに関心が高くなりました。新聞やニュースで記事が出ていると意識的に見るようになりました。そして、そのことについて授業内容を思い出しながら、自分のなかで考えるようになったと思います。

・課題で自分の地域のアクセシビリティについて調べてから、出かけたときには点字ブロックや多機能トイレなどが使いづらいものになっていないか気に留めるようになりました。

・道を歩いているとき、点字ブロックを確認した

り、駐車場で車いす専用のスペースがどのようになっているか無意識に見るようになりました。

②当事者意識をもって家庭生活や現代社会における諸課題を捉えるようになっていく。

・授業のはじめに考えただけでも生活における諸課題はこんなにも多くあるのだと改めて感じました。そのほとんどが普段からテレビのニュースや新聞などでも目や耳にするものばかりで、その深刻さを感じます。しかし、何気なく生活しているとあまり自分には関係ないようなことの気がして、その深刻さに気付いていませんでした。「日本の1日」「100人でみた日本」をみていくと、より現実味が増しました。この数字を見るだけで、その背景に様々な課題があがってきます。(中略)自分たちのことと考えると、生活における諸課題をしっかりと考えていかないといけないと思いました。

・今日の授業を受けるまでは、どこか自分には関係ないという目でこういった現状や課題を見ていたように思ったので、これからはもっと視野を広げ、様々な問題を自分のこととしてとらえ、考えていこうと思う。(後略)

・人口を100人で考えると、何となくでしか捉えていなかった問題が一気に身近な現実となって、自分のこととして感じるようになりました。

③自己責任の問題として捉えていた「貧困」や「ニート・フリーター」の問題を、社会構造的な問題として客観的に捉えることができるようになっていく。

・今までフリーターやニートなどの正社員でない人に対して、働く意欲がないと思っていた。しかし、正社員になりたくてもなれないという事実があったのだと分かった。イス取りゲームの例はとても分かりやすく、問題点が見つけやすかった。

・イス取りゲームを通して考えると、貧困が具体的にどのようなものか分かりやすかったです。確かに日本は個人の問題として捉えてしまいがちだけど、社会の構造的な問題だという認識をもち、それを解決していく必要があると思いました。自分とは関係ないことだとは捉えずに、しっかりと貧困の問題に向き合っていかなければならないと実感しました。

・(前略)日本の社会の構造的な問題が多くあることを実感しました。私は、将来保育士になりたいと思っているので、そのような人たちのセーフティネットを支えることができるよう、今から様々なことをしっかりと学んでおきたいと思いました。

④さらに、これらに関連して貧困やジェンダーの問題は、教育現場でも生じている課題であり、解決に向けて自分が取り組むべき課題を考えるよう

になっている。

・自身のジェンダーの意識の変革をし、子どもたち一人ひとりの個性や特徴を尊重した教育を行っていきけるような教師になりたいと思いました。

・貧困問題は、確かに目に見えにくいですが、その数字から見てみると、日本の貧困問題はかなり悪いところまで来てしまっているのだと思う。学校現場に入ると、それがさらに目に見えてくるのだと思う。その時のために、もっと貧困の状況をよく見ていく必要があるし、私たちにできることを模索していく必要があるのではないかと思った。

・私は、将来子どもに関わっていく仕事に就きたいと思っているので、その時、子どもだけを見るのではなく、子どもが抱えている背景や親の状況等も理解し、関わっていきけるようになりたいと思った。そのためには、様々な視点から物事を見ることができるよう普段から社会の変化に敏感に目を向けていくようにしたいと思った。

また、この授業を受講して、自分自身のなかで変わったこと(意識や行動など)として、

・生活のなかで物事を見たり、考えたりするときに、自分の立場だけでなく、自分と異なる立場に立つように意識するようになった。

・自分だけでなく様々な立場の人の視点から物事を見るようになりました。生活の中で課題を見つけ、その対策を考えることに積極的になりました。

・ジェンダーに対する意識は変わったと思う。「男らしさ」「女らしさ」という考え方は、もしかしたら私も押しつけていたことがあったかもしれないと自分の行動に気をつけることができた。

・バリアフリーがちゃんと意味をなしているかという授業をしてからは、自分が障害となる行動・行為をしていないか、以前よりも気にかけるようになりました。

などがあげられ、意識や行動にも変化がみられた。

### 3. 次年度への課題

本授業でもっと学びたかったことは、「日本の社会保障についてよくわからないところがたくさんあったので、もっと知りたいと思った」「再分配のところがあまり理解できなかったのもっと深めたいです」「福祉について具体的な内容や制度を知りたくなりました」「私は家と福祉の面に興味があるので、もっと詳しく学びたいと思った(でも少し分野が違うかなと思った)」というように社会保障・福祉面が多い。授業に関連するものに関してはもう少し丁寧な解説をしたり、翌週に復習をしたりするなど対応したい。児童福祉に関しては3年次専門教育科目「子ども・家族福祉」で扱っているので、担当者と連携をしていきたい。